

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立肥前中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各評価項目については、概ね達成できた。学力向上や特別支援教育の充実など取り組みが不十分なところについては、見直しをもって改善できるように取り組んでいきたい。 生徒が自信をもって「将来の夢や目標を持っている」と回答できるよう、年間を通したキャリア教育の充実に向けて取り組んでいく必要がある。 特別な支援が必要ではないかと思われる生徒が通常学級に混在している状況の中、生徒の実態により、関係機関や相談等の他機関などへどのようにつなげていけばよいかが課題となっている。今後も関係機関や相談等の他機関などとの連携を図りながら積極的な支援を行ってきたい。
2 学校教育目標	志と誇りを胸に、たくましく、心豊かに学び続ける生徒の育成
3 本年度の重点目標	<p>I 確かな学力の育成 ⇒①「学ぶ力」を育成する教師の授業力の向上 ②「学び」をこれからの人生や社会に活かそうとする豊かな人間性の涵養</p> <p>II たくましい体力の育成 ⇒①食育の充実と健康の保持増進 ②体力・運動能力の向上</p> <p>III 思いやりの心の育成 ⇒①いじめを生まない土壌づくりと自他を大切にする心の育成 ②ボランティア活動の充実とボランティア精神の育成</p> <p>IV 生徒指導体制の充実 ⇒①自己指導能力の育成 ②発達支持、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止</p> <p>V 保護者連携・小中連携 ⇒①積極的な情報発信 ②共に育てるという雰囲気醸成</p>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員の共通理解のもと、一人一人が表現できる場を設定し、活動することで自分に自信をもち、意欲的に学習に向かう教育活動。	○学習アンケートにおいて「自信をもって表現できる場になった」「自分からすすんで学習に取り組むようになった」と回答した生徒が7割を超えた。	・各教科の授業や学級活動の中で、一人一人が表現できる場を設定し、継続的に活動する。	A	・学習アンケートにおいて「自信をもって表現できるようになった」と回答した生徒は75%、「自分からすすんで学習に取り組むようになった」と回答した生徒は98%であった。 ・授業の中で発表や、プレゼン、掲示物の作成を通し表現活動を行うことができた。	A	・これから探究したり、プレゼンしたりする能力が更に重要になってくるので、継続して授業で探究学習や発表する機会を取り入れて欲しい。 ・再来年の高校入試制度の改革にも対応して欲しい。	研究主任 学力向上コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳振り返りシートにおいて「意欲的に参加できた」「考えを深めることができた」の項目でAが50%以上。 ○人権集会、同和教育集会の感想において「自分のためになった」と回答した生徒が7割を超える。	・道徳授業づくり研修会の設定 ・人権・同和教育に関する校内研修の実施	A	・生命尊重や他者への思いやり、社会性について授業で取り組むことができた。また、その振り返りシートにおいて「意欲的に参加できた」「考えを深めることができた」の項目でAが80%以上であった。 ・人権集会や社会科の身分制度の授業の感想において、肯定的なものが増えた。 ・いじめ防止標語に85%以上の生徒が参加できた。	A	・よかれと思ってしたことが、他人に嫌な思いをさせてしまうことがあるので、自分の言動が他の人にもどのような影響があるのかを、ひとつひとつ丁寧に振り返らせて欲しい。	道徳教育推進教員 人権・同和教育担当
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止、対応についての共通理解を図り、発覚時に組織的な対応ができていたと回答した教職員の割合が80%以上	・学年内での連携を充実させると共に生徒指導部会での情報共有を充実させ、学年間で迅速に対応できる体制をつくる。 ・毎月生活アンケートを実施する。 ・開発的生徒指導の視点から、授業、行事、様々な教育活動の場面で、生徒に活躍・決定の場を与え、自己肯定感を育てる。	B	・教育についてのアンケートにおいて、「連携を密にし、組織的にいじめの早期発見や生徒の人権意識の高揚を図った」と回答した職員は、76%であり、成果指標の80%に届かなかった。 ・開発的生徒指導の視点から、授業、行事、様々な教育活動の場面で、生徒に活躍・決定の場を設け、自己肯定感を育てることができた。	B	・組織において共通理解をはかり仕事にあたることはとても重要なことなので、来年度は更に連携を密にして欲しい。 ・意図的に生徒に活躍の場を設けて、積極的に認めていく事はとても有効な方法だと思うので、是非来年度も継続して取り組んで欲しい。	生徒指導主事
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と思うと回答した生徒80%以上。 ◎「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・しぶらログや振り返りシートの中で、一人一人の頑張りを良いところを認めるコメントを書き、自己肯定感を高める。 ・「進路便り」で情報を発信する。 ・定期的に進路アンケートを実施したり、必要に応じて面談を行ったりして、生徒やご家庭の意に適した助言をしながら決定へと導く。	A	・教育についてのアンケートにおいて、「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒は94%であった。 ・教育についてのアンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は87%であった。 ・「進路適性」の定期的な発行に努め、生徒や保護者と情報を共有したり、受験スケジュールの見直しや留意点などを早期に知らせたりすることができた。	A	・自分が認められていると感じると、生徒は安心して更に頑張ろうという気持ちになる。多くの生徒が認められていると感じていることは、とてもいいことだと思える。 ・声優やイラストレーターなど、中学生の頃から具体的な夢や目標を持っていることは、素晴らしいことだと思う。来年度も、生徒が具体的な夢や目標をもてるような、系統的なキャリア学習の推進をお願いしたい。	総合的な学習の時間担当
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・生活習慣アンケートの実施する。(運動・生活リズム・食事・安全について) ・毎日の健康観察を行い、自分の健康状態に関心を持つようにする。 ・食に関する取り組み(おにぎり弁当の日)を実施する。 ・生徒会の給食実践部の取組として、給食に使用されている食材について、情報を発信する。	A	・教育についてのアンケートにおいて、「健康に良い食事をしている」と回答した生徒は90%であった。 ・毎朝の食で保による健康観察を実施した。体調が悪い時は我慢するのはなく、自分で伝えることができるようになってほしいと思ひ、聞き取りによる健康観察を実施しているのを引き続き行っていきたい。 おにぎり弁当は「学期のみ実施した。来年度は小学校と連携して、毎日実施でたよふと考える。 ・毎日の給食時の放送原稿は、本校の生徒に合った内容になるよう作り替え、情報を発信することができた。	A	・自分の食生活に関心を持っている生徒が多くて感心した。今後も食育の充実を図って欲しい。 ・食育も小中が連携して取り組むとより充実すると思うので、来年度は是非「おにぎり弁当の日」を小中同日開催を実施して欲しい。 ・給食時の放送を、発達段階に応じて内容を考えることはとても有効だと思うので、今後も継続して取り組んで欲しい。	食育担当
	○体力・運動能力の向上	○保健体育の授業の振り返りで「授業に積極的に取り組めた」と回答した生徒の割合が80%以上。	・授業のはじめに今日の授業の流れやポイントをつかませる。 ・体力テストを実施し、昨年の記録との差を確認し、ポイントが低い項目への対策を行う。	A	・授業の振り返りにおいて「授業に積極的に取り組めた」と回答した生徒の割合は80%を超えている。 ・体力テストについては、去年のデータと今年のデータを比較しながら、振り返りを行わせたことができた。 ・実践部と協力し、授業の始めに体力向上のトレーニングに取り組むことができた。	A	・今後、部活動の地域移行が進んでいくと思うが、生徒たちの活動が滞らないような支援を模索して欲しい。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在等時間削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤日とし、会議終了後は速やかに退勤するように声をかける。 ・学年で計画的に年休を取得できるように翌月の年休取得計画を提出させる。	B	・定期退勤日の徹底はできなかったが、繁忙時以外は、比較的早い時間に退勤することができた。 ・年休を14日以上取得できた職員は57.1%であった。計画的な年休取得を呼びかけ、来年度は更にこの割合を高めたい。	B	・先生方は忙しいと思うので、なかなか早く帰れないと思うが、仕事内容の見直しや精査をして業務改善を進めてください。 ・長期休業中などは、積極的に休むようにするのいいと思う。	管理職
	○メンタルヘルス対策	○「心のセルフチェックシステム」であまりストレスを抱えていないという結果の教員が7割以上。	・健康に関する情報提供やストレスチェックの実施、ラインケアの充実を目指す。	B	・成果指標に対する達成度は6割程度にとどまった。来年度は積極的にセルフケア等の研修会等に参加するように呼びかけたい。	B	・生徒に人間関係の指導を行っていると思うが、まずは大人がよい人間関係を築くことが大切だと思う。ストレスの多くは人間関係だと思うので。	管理職
●特別支援教育の充実	○発達障害等への理解の向上	○「発達障害等への理解が向上した」と回答した教員の割合が80%以上。	・特別支援教育についての研修会を年に2回以上実施する。その後、アンケートを実施する。	A	・特別支援教育の視点を取入れた学級づくり」という内容での研修後のアンケートは、肯定的な回答が80%以上であった。また、各教員の講師への質問に対しても講師の先生に回答いただき、職員にフィードバックすることができた。	A	・通常学級に在籍していても、特別な支援を必要としている生徒の割合は年々増加している。そのような生徒たちが、社会に出た時に困らないような対処法を是非身につけて欲しい。	特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○ICTを活用した情報発信	○「学校は情報発信に努めている」と答える保護者の割合を80%以上にする。	・はなまる連絡帳やホームページを活用することで情報発信のペーパーレス化を進める。	A	・「学校は情報発信に努めている」と答える保護者の割合は98%であった。今後も積極的に情報を発信していきたい。	A	・しっかりと保護者が学校の情報をキャッチできているのはいいことだと思う。今後も積極的に情報を発信して欲しい。	情報推進リーダー 学年主任・学級担任 管理職
○小中連携	○小中連携による共通理解と共通実践	○生徒アンケートにおいて肥前中は小学校と連携して、生活・学習習慣づくりを進めていると思うと回答する生徒の割合が7割以上。	・小中共通した学級マニュアルを活用した学級の実施。 ・年に2回、小中合同研修会を実施し、情報共有や課題の共有を図る。	A	・肥前中は小学校と連携して、生活・学習習慣づくりを進めていると思うと回答する生徒の割合が96%であった。来年度も年に2回、小中合同の研修会を企画し、効果的な取り組みの共有や情報交換を進めていきたい。	A	・小学校の運動会に中学生がボランティアとして参加する取り組みは、とても素晴らしいと思う。来年度も是非、継続して欲しい。 ・中学校の英語の教員が小学校に向向いて授業をすることは、英語力の向上にたいへん有効だと思う。	管理職 各部会担当
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 各評価項目については、概ね達成できた。業務改善・教職員の働き方改革の推進など取り組みが不十分なものについては、より具体的な対策を考え改善できるように取り組んでいきたい。 学力の向上においては、取り組みの成果が出てきているので、継続して「表現できる場」を意図的に設定すると同時に、基礎学力の向上にも力を入れたい。 特別な支援が必要ではないかと思われる生徒が通常学級に混在している状況の中、生徒の実態により、関係機関や相談等の他機関などへどのようにつなげていけばよいかが課題となっている。今後も関係機関や相談等の他機関などとの連携を図りながら積極的な支援を行ってきたい。 							